

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 16 日現在

機関番号：34448
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2012～2015
課題番号：24590644
研究課題名(和文) 急増した鍼灸学科の医療安全教育の評価と、質の保持・向上のためのコンテンツ開発

研究課題名(英文) Development of effective education contents for safety education in acupuncture course which rapidly increased

研究代表者
山下 仁 (Yamashita, Hitoshi)

森ノ宮医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：10248750
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)： 急増した鍼灸師養成課程の医療安全教育レベルを維持向上させるため、文献調査、海外施設調査、およびワークショップと質問調査による、効果的な鍼灸医療安全教育の授業モデルを作成した。上記各調査およびワークショップの議論を踏まえ、また今まで散在していた教材や方法論を統合して鍼灸安全教育に特化した科目「鍼灸安全学」(90分×15回)のシラバスに組み込み、実際に授業で試行した結果、学生の肯定意見は授業の理解度で89.1%、教材の使用で97.8%と良好な評価であった。

研究成果の概要(英文)： In order to maintain and raise the level of safety education in acupuncture course which rapidly increased in universities and professional schools, effective education contents were developed through literature survey, overseas visit, questionnaire survey and workshop. Unstandardized teaching materials and methodology as well as the results of the surveys and the workshop discussion were integrated into a subject syllabus of "safe practice of Acupuncture and Moxibustion" (90 min x 15) dedicated to acupuncture safety education. A class using this syllabus received good feedback from students: 89.1% positive evaluation in understandability and 97.8% in teaching materials.

研究分野：臨床鍼灸学

キーワード：鍼灸 安全教育 授業 コンテンツ シラバス

1. 研究開始当初の背景

(1) 鍼灸学科急増と教育の質低下の懸念

1999年度まで全国合計20数校であった専門学校と大学の鍼灸師養成課程(以下「鍼灸学科」と呼ぶ)は2000年度以降に急増し、2011年には101校(専門学校91校、大学10校。ただし視覚支援学校、視力障害教育センター、筑波技術大学を除く)に増加した。このことによって、鍼灸学科の定員はこの10年で7倍に増加し、鍼灸師が大量排出される時代になった。これに伴って最も懸念されるのは教育、特に鍼灸の医療安全教育の質の低下である。

(2) 散在する安全性情報と教育ツール

鍼灸医療安全教育は必ずしも統一あるいは徹底されておらず、教授される情報や教育方法、科目と時間数、あるいは教員の経験などは学校によってかなり幅がある。今後は当該分野のエキスパートではない臨床系教員であっても、最低限必要な情報を、効率よく、そして長期間にわたって印象が残る形で学生に教授できるようにし、安全な施術の知識と技術をさらに向上させることが喫緊の課題である。

2. 研究の目的

鍼灸受療患者の安全を将来にわたって保証するため、鍼灸学科における医療安全教育の評価と、質の保持・向上のためのコンテンツの開発、収集、整理を行い、モデルとなる授業科目とシラバスを確立させる。

3. 研究の方法

(1) 鍼灸学科の教育状況に関する質問調査

鍼灸学科を有する教育施設に鍼灸安全教育の実施方法、実施時期、教育内容、教材、鍼刺し事故の対応、安全教育の必要性等について質問調査を行った。

(2) 文献と賠償責任保険での鍼灸過誤調査

鍼灸学科急増以降に医学学術雑誌に発表された鍼灸医療過誤を示唆する論文や鍼灸の過誤に対する賠償責任保険支払い状況を急増以前の状況と比較するとともに、教育で防止に注力すべき過誤の種類を特定する。

(3) 海外の鍼灸安全教育の現状調査

海外の大学鍼灸学科を訪問して、鍼灸安全教育のプログラム、施設、教材等を視察し、担当者にインタビューした。

(4) 調査結果、シラバス、専門家意見の集約

上記質問調査および文献・保険支払調査の結果に、安全管理に特化した授業科目をもつ教育施設の現行シラバスの情報を加えてワークショップの題材とし、鍼灸安全教育のエキスパートで議論し意見を集約した。

(5) 授業モデル作成とその評価

集約した意見を踏まえて鍼灸学科で行われるべき安全教育のシラバスと教材を作成し、学生の授業評価を受けた。

4. 研究成果

(1) 鍼灸学科の教育状況に関する質問調査

全国の鍼灸学科を有する大学・専門学校を対象とした質問調査が別の研究グループにより行われたため、重複を避けて調査票の郵送を中止し、このグループと共同で大学・専門学校と比較可能な質問票を視覚支援学校に送付した。その結果、39施設から回答を得た(回収率58.2%)。ほぼすべての施設が重要な有害事象や禁忌・刺鍼深度などについては教授していたが、セクハラ・パワハラは74%、心肺蘇生法と自動体外式除細動器については41%の施設のみ取り扱っていた。また、学生のB型肝炎ワクチン接種を実施していると回答した施設は44%であった。

(2) 文献と賠償責任保険からみた鍼灸過誤

医中誌 Web および PubMed により関連文献を検索し、収集して事象ごとに整理した。その結果、報告数は10年前の調査と大差ないが、近年においても少数ながら臓器損傷、感染症、神経損傷、伏鍼(異物)その他が報告されていた。

賠償責任保険による支払例(平成23年までのデータ)は、平成19年をピークとして例数・金額ともに減少傾向にあった。しかし気胸など重大な過誤も以前と変わらず発生していた。

以上の調査は出版バイアスや報告バイアス等に留意する必要があるが、少なくとも局所解剖、安全刺鍼深度、感染制御、慎重な刺鍼操作等を教授すること、そして鍼灸師の読まない西洋医学系学術専門誌に掲載されている情報を教育にフィードバックすることの必要性が示唆された。

(3) 海外の鍼灸安全教育の現状調査

韓国の国立釜山大学では特化した授業科目はなく、いくつかの授業科目の中に安全性教育が散在していた。オーストラリアのシドニー工科大学およびウエスタンシドニー大学では抜いた鍼の取扱い、安全管理教育プログラムの文章化、およびITを用いた授業について日本よりも徹底しており、そのガイドラインを入手した。

(4) 調査結果、シラバス、専門家意見の集約

大学鍼灸学科で鍼灸安全教育に特化したシラバスがWeb上で入手できるのは4校であり(平成26年現在)すべてが過誤、有害事象、感染制御を、また2校以上が関連機器の安全管理、システムとしての事故防止策、インシデント報告、安全刺鍼深度、事故発生時の処置を含んでいた。国内の鍼灸安全教育プログラムが標準化されていないことが確認できた。

ワークショップを開催し、鍼灸安全教育に携わる教員に対して以上の調査結果を紹介して議論し、意見を集約した。その結果、入学直後と臨床実習直前の2回に分けて安全教育を行うべきこと、安全刺鍼深度に関する人体模型の開発・改良・普及、教科書およびガイドラインの記載の更新と統一、シミュレーション教材の積極的な使用、について合意が得られた。当初はデルファイ法による授業コンテンツの統一と合意を目標としたが、専門学校で15コマの科目を設置できない事情などに配慮し、授業コンテンツの優先順位決定までとした。

(5) 授業モデル作成とその評価

以上(1)(2)(3)(4)を踏まえ、今まで散在していた教材導入や方法論を統合して、鍼灸安全教育に特化した科目「鍼灸安全学」のシラバスに組み込み、実際に大学および専門学校の授業で試行した。大学では4年生46名からの授業評価を受けた。その結果、肯定意見は、授業の理解度で89.1%、教材の使用で97.8%と良好な評価であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

古瀬暢達, 田中賢, 竹内将文, 山下仁. 鍼灸指導における教育効果の検討 - 刺鍼深度と刺鍼部上下圧を指標して -. 理療教育研究. 査読有. 2015; 37(1): 11-18.

古瀬暢達, 山下仁. 鍼治療の安全性向上に関する文献的検討 - 気胸を除く臓器損傷・異物 -. 医道の日本. 査読無. 2015; 74(4): 120-129.

増山祥子, 辻丸泰永, 山下仁. 病棟における鍼治療の可能性と課題 - 患者統計とインシデント報告 -. 森ノ宮医療大学紀要. 査読有. 2014; 7・8: 185-190.

古瀬暢達, 山下仁. 鍼治療の安全性向上に関する文献的検討 - 気胸 -. 医道の日本. 査読無. 2014; 73(9): 118-125.

White A, Boon H, Alraek T, Lewith G, Liu J-P, Norheim A-J, Steinsbekk A, Yamashita H, Fønnebo V. Reducing the risk of complementary and alternative medicine (CAM): challenges and priorities. European Journal of Integrative Medicine. 査読有. 2014; 6(4): 404-408.

古瀬暢達, 山下仁, 増山祥子, 江川雅人, 楳田高士. 鍼灸安全性関連文献レビュー2007~2011年. 全日本鍼灸学会雑誌. 査読有. 2013; 63(2): 100-114.

古瀬暢達, 山下仁. 鍼治療により生じた神経傷害例の文献レビュー. 医道の日本. 査読無. 2013; 72(6): 138-146.

山下仁. 現代臨床鍼灸学概論 10. 感染制御の方向性. 理療. 査読無. 2012; 42(3): 10-16.

〔学会発表〕(計 件)

Yamashita H, Furuse N, Murakami T, Shinbara H, Sugawara M, Umeda T, Katai S. Developing an effective syllabus for safe acupuncture practice based on a workshop. World Federation of Acupuncture - Moxibustion Societies Toronto 2015. Sep 25-27, 2015. Toronto (Canada).

古瀬暢達, 山下仁. 鍼治療の安全性向上に関する文献的検討(4) - B型肝炎・C型肝炎 -. 第35回近畿支部学術集会. 2015年11月29日. 明治東洋医学院専門学校(大阪).

山下仁. 鍼灸の安全性: エビデンスと教育. 第18回日本統合医療学会. 2014年12月21日. パシフィコ横浜会議センター(神奈川).

山下仁, 古瀬暢達, 村上哲二, 内野容子, 北小路博司. 鍼灸安全教育の現状(視覚支援学校). 鍼灸安全教育ワークショップ2014. ホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪).

山下仁, 古瀬暢達, 村上哲二, 内野容子, 北小路博司. 視覚支援学校・視力障害センターの鍼灸安全教育に関する質問調査. 第63回(公社)全日本鍼灸学会学術大会愛媛大会. 2014年5月16日. ひめぎんホール(愛媛).

古瀬暢達, 山下仁. 鍼治療の安全性向上に関する文献的検討(2)-気胸-. 全日本鍼灸学会第33回近畿支部学術集会. 2013年11月23日. 明治東洋医学院専門学校(大阪).

増山祥子, 辻丸泰永, 山下仁, 小嶋晃義. 病院病棟における鍼治療の可能性と課題 - 患者統計とインシデント報告 -. 第62回全日本鍼灸学会学術大会. 2013年6月9日. アクロス福岡(福岡).

Yamashita H. Differences in practice, effect and safety of acupuncture among countries: an example of Japan. International Scientific Acupuncture and Meridian Symposium 2012 Sydney. Oct 5, 2012. Sydney (Australia).

古瀬暢達, 山下仁. 鍼治療の安全性向上に関する文献的検討 - 神経傷害 -. 全日本鍼灸学会第32回近畿支部学術集会. 2012年11月25日. 明治東洋医学院専門学校(大阪).

〔その他〕

ホームページ

オーストラリアの鍼灸安全教育(2)
http://mumsaic.jp/info/index.php?c=topics2_view&pk=1423046209

オーストラリアの鍼灸安全教育(1)
http://mumsaic.jp/info/index.php?c=topics2_view&pk=1422984927

6 . 研究組織

(1)研究代表者

山下 仁 (YAMASHITA Hitoshi)

森ノ宮医療大学・保健医療学学部・教授

研究者番号：10248750